

仲間とともに、まちににぎわいを取り戻したい――

島田夏まつりの名物「しまだお化け屋敷」。川端さんは、まちのにぎわいを取り戻すうと、仲間や子どもたちと一緒に、かつて繁盛したお化け屋敷の復活に取り組み、この夏で4回目を迎えてました。

#### 【若手が変えるまちづくり】

塗装業を営む傍ら、かつて青年会議所の理事長を務めていた川端さん。15年以上前に一度、夏まつりの名物だったお化け屋敷が姿を消してから、まちに活気がなくなる危機感を抱いたといいます。

「人手不足でお化け屋敷ができなくなつて、商店街の若者が減つてることを痛感しました。なんとか復活できなかと、青年会議所で始めたのが4年前です。最初は青年会議所が主催していましたが、やがて、会場も2つ用意しました」

#### 【生徒の主体性を伸ばす】

お化け屋敷の復活には、実行委員会だけでなく、中学生ボランティアが50人以上参加。企画と準備、そして当日の演出を行いました。

「特に協力者が多かつたきました」



しまだお化け屋敷実行委員会 会長  
**川端祥太郎**さん(本通一丁目)

今回は、初めて有料化したものの、2日間で約2000

人が来場し、最も混雑した時間帯では1時間待ちの行列ができたほど。子どもたちからは「こわいけど楽しい」と大好評だったそうです。

初倉中では、放課後にワークショップを行い、どんなお化け屋敷がいいかをみんなで考えました。『こんなお化け屋敷にしたい!』と次々にアイデアが出てきて、それを大人が製作して実現しました。中

【まちを「元氣にする経験】

子どもたちが怖がつたり楽しんだりする姿を見て、川端さんは目を細めます。

「特に、車椅子に乗った子が『遊園地のお化け屋敷には入れないから』と毎年遊びに来てくれることが、すごくうれしい。遊園地のようにはできなけれど、手作りだからこそできる工夫があります。

青年会議所の若手は、それが業界のプロ。みんな自分の得意なことを生かして、活動しています」

また、大人も子どもも楽しんでいることが何よりうれしいと、川端さんは話します。

「ボランティアの中学生に、お客様が喜んでくれることの楽しさや、まちづくりの楽しさを知つてもらう良い機会。『まちづくりって楽しい!』と生徒たちに経験してもらうことが、将来新たなにぎわいが生まれることにつながれば、うれしいですね」

子どもたちの笑い声が聞こえる元気なまちづくりのために、川端さんは仲間とともに、新たににぎわいの芽を育てていきます。



お化け屋敷入り口(中は、入ってからのお楽しみ)

Shimadajin File #94

Story

島田人